

国際規格の動向—国際会議に出席して— 須賀茂雄

ISO/TC156 (金属及び合金の腐食) WG7 (腐食促進試験) Web 会議

開催日:2020年6月2日

場所:Web 開催

参加国:韓国・中国・チェコ・スウェーデン・フランス・ドイツ・アメリカ・イギリス・日本 9ヶ国 31名

(1) ISO 9227(塩水噴霧試験)

1月に当社須賀より、昨年提案の噴霧採取容器を試料が置かれる位置にする案が回送され、ドイツからコメントが来ていた。会議ではコメントを議論し、須賀を PL としてコメントを反映した CD を 8月1日までに作成し、8週間の投票を行う。

(2) Condensation test(湿潤試験)

Kreislova 氏から説明があった。タイトルの修正や試験槽容量について日本・ドイツからコメントがあり、コメントを反映した WD、Form 4 を 10月1日までに準備する。

(3) ISO 16701(温湿度制御下での複合サイクル試験)

Mats Ström 氏から進捗報告があった。定期見直しの期限は9月2日である。

(4) New CCT Method(日本提案の複合サイクル試験)

峯田氏(三輪氏より変更)より、昨年に引き続き New CCT Method の紹介があり、実環境との相関性が良い結果であると説明があった。溶液の作成が複雑、データが少ないといった議論があった。NWIP 提出前に科学的根拠やメリットを提出し、特許の取り扱いも含め再度議論を必要とする。

(5) ISO 10062(ガス腐食試験)

定期見直しで須賀から腐食性ガスに関して安全性注意喚起の追加提案がされた。須賀が PL となって minor revision として DIS を準備し、次回 WG7 会議で議論する。

(6) ISO 11474(間歇塩水スプレによる屋外暴露試験方法) 定期見直しの結果、Confirm とした。

(7) ISO/CD 11997-3 (VDA 233-102 サイクル試験)

ISO / TC35 / SC9 / WG31 で行われている ISO/CD 11997-3 について Convenor より説明があった。TC156 より Convenor が WG7 の liaison officer として任命され、TC156 より意見を出すことになった(7月9日投票期限)。

(8) NWIP E-CCT (Electrochemical Cyclic Corrosion Test)

Kim 氏より説明があり、これは自動車部品などの塗装製品に対してアノード分極による素地の溶解促進とカソード分極による塗膜の劣化促進を中心としたサイクル試験である(7月23日投票期限)。

(9) 2020年までの Convenor 任期となっていた Johan Tidblad 氏の 2023年まで任期延長が認められた。

次回は、ISO/TC156 本会議に合わせて開催予定。



Zoom 会議中の風景

| < ISO 規格発行までの手順 > | | |
|-------------------|------|------------------------------------|
| 予備段階 | PWI | Preliminary Work Item (Project) |
| 提案段階 | NP | New Proposal for a work item |
| 作成段階 | WD | Working Draft |
| 委員会段階 | CD | Committee Draft |
| 照会段階 | DIS | Draft International Standard |
| 承認段階 | FDIS | Final Draft International Standard |
| 発行段階 | IS | International Standard |

[NWIP :New Work Item Proposal]